

## 六甲部 Y サ・ユース事業委員の会 議事録

日 時：2017年8月7日（月）19時～20時30分

場 所：神戸 YMCA 三宮会館 201 教室

参加者：神戸 YMCA 井上真二氏(総主事)、達 直樹氏(六甲部連絡主事)  
京都メイプルクラブ 山川新一氏(西日本区 Y サ・ユース事業主任)  
神戸クラブ 美崎 晋氏(会長)  
西宮クラブ 岩田健司氏、藤田良祐氏(連絡主事)  
神戸西クラブ 大田厚三郎氏  
神戸ポートクラブ 大野 勉氏(西日本区理事)、松田道子氏(連絡主事)  
宝塚クラブ 福田宏子氏、谷川 尚氏(連絡主事)  
さんだクラブ 齊藤 靖氏(連絡主事)  
神戸学園都市クラブ 杉本隆人氏(六甲部部長)、長坂泰一氏  
芦屋クラブ 柏原佳子氏(会長)、上野恭男氏(六甲部 Y サ・ユース事業主査)  
柳原謙介(連絡主事)

- ・自己紹介：各自、自己紹介が行われた。

### 議事

- ・上野恭男主査より開会あいさつと趣旨説明

ワイズメンズクラブは、YMCA を支えることを目的とする中で、どのように YMCA と事業内容や課題を共有しコミュニケーションを深めていけるのか、六甲部8クラブそして、西日本区 Y サ・ユース事業主任にも同席いただき、今期の事業計画を共有するために、このような会を催す運びとなったことを説明された。

- 1) ワイズメンズクラブと YMCA のスタンスを以下の方々より述べられた。

- ・大野 勉氏(西日本区理事)

今期の西日本区広報の中で、元アジア太平洋 YMCA 同盟の山田公平さんの寄稿より、ワイズメンズクラブと YMCA が協働することは、日本の YMCA がよいモデルケースになるのではないかとあり、特に、六甲部では世界に示すモデルとなりえるのではないかと。お互いが「お手伝い」ではなく協働することで、支えたくなる YMCA、入りたくなるワイズの実現をめざし、2020年のワイズメンズクラブ設立100周年に向けて始動したい。

- ・山川 新一氏(西日本区 Y サ・ユース事業主任)

2018年ユースコンボケーション開催にむけて、YMCA やボランティアとの関係が深い六甲部においては、多くのユースの参画を期待している。また、EMC 活動において、YサやCSの事業がマンネリ化してはいけない。クラブが誇れる、楽しめる事業展開を期待している。六甲部においては、YMCAとのつながりの中で、モデルケースになり他の部が参考にできる事業を展開してほしい。

- ・杉本隆人氏(六甲部部長)

次世代に継承できる、Yサ・ユース事業をおこなう。共感し支え合う関係を(事業を)YMCAと築

いていきたい。できるだけユースに良い経験や、好奇心を与える事業を展開することを期待している。一緒に遊べるようなYサ事業を！

・井上真二神戸YMCA総主事

新館建築にあたり、ワイズの皆様には多大なご支援への感謝をしている。与えられた会館とともに改めてともに活動ができる喜びを感じている。連絡主事に対して、鈴木誠也さんのお話を聞く機会を設け学びの時を持ったように、ワイズとYMCAのコミュニケーションの質と量を増やしYMCAとしてお願いができること、協働することに期待をもちたい。また、ブランディングに関してもスタッフでは気付けない事もあるが、ワイズの方々の視点でご指摘いただき協働できるように期待している。

2) 各クラブ代表者より、今期Yサ事業の活動計画をレクチャーされた。

神戸クラブ：神戸西クラブとBBQ例会を行い、余島リーダーを招待する。また、例年通りYYフォーラム。チャリティランにおいては、ユースと交流を持つ機会を。

西宮クラブ：西宮カーニバルを実施。

春・秋のファミリープログラムは、保育園の子どもたちを対象に行い、保護者と交流する中で、新たなワイズへの勧誘につなげたい。西宮クラブはリーダーOB・OGが多く充実した内容のプログラムが実施されているとともに、職員と協働することで、交流する機会にもなっている。

神戸西クラブ：長田ランチでの活動が震災により拠点を失い、メンバー数も少ない中でも六甲部の一員としてYMCAをサポートする事は基本的なスタンスとしている。長田地域においては、先駆的な活動を行ってきたワイズ・YMCAの歴史を後世に伝える事にも視線を向けている。元リーダーや職員があつまり、これまでの活動や関わりをまとめていく予定。

神戸ポート：三宮会館秋まつり・新館記念チャペルコンサートを開催予定。30周年行事も行う予定。ポートクラブは国際奉仕センターへの支援を目的に設立された経緯があるので、今後も同様に支援を考えていきたい。

宝塚クラブ：ユースコンボケーションやリーダートレーニングなどへの支援や、ユースを例会に招待(支援プログラムの報告など)を行う。クリスマスキャロリングやジャガイモファンド、阪神自立の家での凧揚げ事業などをYMCAと積極的に協働して行う。課題としては、ランチとのつながりがないワイズとして、YMCAとどのように繋がっていくか、また、YMCAとつながりが薄いメンバーをどのように理解を深めていくかがあげられている。

さんだクラブ：三田センターの事業縮小にともない、ワイズとユースで25年間培ったつながりが失われ、大きな支援先がなくなってしまった。「リーダーとともに」と掲げた活動ができなくなったが今後も地域で、ユースがどこで求められているのかを開拓して、事業につなげていく。

神戸学園都市クラブ：わいわい祭りの売上げを寄付。ジャガイモファンドについては、配送費用の高騰にともない、地産地消をめざし農地を確保。農地を利用してファンドの確保と、保育園や高等学院との交流事業を企画していく。太山寺児童館においては、地域で格差のある家庭への支援、学習支援などをおこなう。

芦屋クラブ：地元にはランチがないクラブとして、YMCAとつながりを持つことを課題にし、クリスマス例会は六甲部のクリスマス会と考えて盛大に開催しており、YMCA会長、総主事に出席いただいている。今期は20周年を迎えるにあたり、贈呈品を検討中。YMCAの語学学校の支援事業の留学生交流会は12年間続けている。芦屋さくらまつり、チャリティランにおいては、中高生のボランティアの場として受け入れ、様々なつながりを生み、学びの場を与えている。

3)総評として、以下の方々よりお話を頂いた。

山川新一氏：京都でもこのような会が行われた。このような会は同じ方向に向いている方々が集まると進んでいく。神戸YMCAと六甲部の強いつながりを感じることができた。

杉本隆人部長：連絡主事が正確にワイズの活動を見てくれている中で、交流によって、地域に根ざした事業ができれば、大きくなっていく。

井上真二総主事：時代に合わせて縮小もある中で、必要とされる活動を続ける、始める事がある。ワイズとYMCAが協働して繋がっていくことが大事。

閉会祈祷：上野恭男氏

(記録：柳原謙介)